

## 「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期改定案）」に関する パブリックコメントの結果について

「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期改定案）」について、広く市民の意見を反映させるためパブリックコメントを実施したところ、その結果は次の通りでした。

### 1. 募集案件

「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期改定案）」

### 2. 募集期間

令和3年2月2日（火）から令和3年2月21日（日）まで

### 3. 閲覧場所

- ・市ホームページ
- ・各市民センター、中央図書館及び地域包括ケアセンターの情報公開コーナー

### 4. ご意見の提出方法

- ・郵送
- ・ファックス
- ・電子メール
- ・直接持参

### 5. 提出されたご意見

3件（郵送1人）

### 6. ご意見の内容

別紙の通り

### 7. 市の考え方（回答及び対応）

別紙の通り

「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期改定案）」に対して市民から提出されたご意見と市の回答について

令和3年3月3日

ブランド戦略部 文化・世界遺産課

令和3年2月2日（火）から令和3年2月21日（日）にかけて実施した、「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期改定案）」に対するパブリックコメントにつきまして、貴重なご意見をありがとうございました。

期間中に寄せられましたご意見は3件でした。

それらのご意見をまとめた内容と市の回答を公表いたします。

**「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期改定案）」に関する  
パブリックコメントにおけるご意見と市の考え方（回答）**

令和3年2月2日（火）から令和3年2月21日（日）まで実施した「南砺市文化芸術振興基本計画（第2期改定案）」の策定に関するパブリックコメントにおいて期間中に3件（1人）のご意見をいただきました。

ご意見と市の考え方は次のとおりです。

No.	ご意見	市の考え方（回答及び対応）
1	<p>① 本計画では、“創造性が強い文化芸術”と地域に根差した伝統的要素の強い“規範性が強い文化芸術”という分類が示され、“新たな文化芸術創造”を見出す必要性を求め、文化芸術が地方創生に有益であるとしている。これは他都市でも実践され、効果が出ている所もある。しかし、現状と課題で市内の文化的資源をリストアップする一方、やむを得ないことではあるが、現状を維持するため、人口減少による担い手・後継者不足の解消やSDGs達成に向けた展開が重要視される内容になっている。これでは既存文化芸術のブラッシュアップが中心で、新たな文化芸術創造への取組が希薄に感じられる。第2期計画なのだから、もう少し将来を見越した新たな創造性を感じられる文化芸術に一步踏み込んだバランスの良い計画を望む。</p>	<p>ご指摘の通り、既存の文化芸術のブラッシュアップに比べて、新たな文化芸術創造への取組は若干希薄に見えるかもしれませんが、しかし本計画は、様々な文化芸術活動を行う市民の方々に組織された「実施計画推進ワーキンググループ」において改定案を作成しており、現在直面している課題やそれに対してどのように取り組んでいくかという、より現状に即した話し合いが中心となりました。よって、遠い将来の理想的な内容よりも、近い未来の現実的な内容に重点が置かれています。</p> <p>本計画における「文化芸術」は、「文化芸術基本法」における分類に依拠しつつ、将来に向けて新たな規範を創造する“創造性が強い文化芸術”（独創性のある芸術も含む）と、長く地域で生まれ規範性を帯びた“規範性が強い文化芸術”という分類を行っています。伝統的な文化の側面と新たに創造的に表現する側面が暮らしの中で融合することで“新たな文化芸術創造”へとつながっていきます。また、既存の様々な文化芸術活動団体が交流することで、新たな化学反応も生まれます。既存の文化芸術を継承しブラッシュアップさせていくことは、将来的には独創性のある新たな文化芸術創造にもつながる重要な取り組みであると考えます。</p>

<p>② “新たな人材から生まれる文化芸術の創造”という視点から、例えば、将来への可能性を生み出す新たな知恵・情報発信の担い手として、既に協定が締結されている美術系大学との連携・活用はどうか。新たな感性を持った芸術関連人材との交わりで生まれるものもあるだろう。大学も地域連携は教育方針として望むところだと聞いている。是非、基本目標（5）文化芸術の下地を支える地域コミュニティの振興の中に、美術系大学との連携活用を一項目挿入してほしい。（上位計画である「第2次南砺市総合計画」の中でも大学連携には触れている。）</p>	<p>大学との連携について、「南砺幸せなまちづくり創生総合戦略（2015～2019）」では、人口減少が進む中で、地域を外部から支える関係人口との連携を深めることを目的に、「連携大学を増やす」ことを基本目標に掲げ、4年間で連携大学数は6件、官学連携による事業数は42件ありました。本年度からスタートした「第2次南砺市総合計画（2020～2029）」では、大学との連携について、具体的な数値目標を設定していません。これは、個々の事業の数値目標の達成状況に着目するのではなく、市の将来像を実現するための4つの目指すべきまちの姿、11の政策の目標・KPIの向上に着目しているためです。</p> <p>本計画においても、“新たな人材から生まれる文化芸術の創造”実現に向けて、一緒に取り組む連携パートナーは、市民や市内の文化芸術団体、企業、個々の芸術家など多様であり、大学に限定して記載する必要はないと考えます。目的の達成や事業を実施するために大学との連携が必要となった場合は、個別の事業ごとに検討していくものとします。</p>
<p>③ 計画に記述されている（文化と教育の先端自治体連合の）5自治体とはどこか。</p>	<p>「文化と教育の先端自治体連合」を構成するのは、北海道東川町、兵庫県豊岡市、岡山県奈義町、香川県小豆島町と南砺市の5自治体です（令和2年度現在）。欄外に補足として追記します。</p>